



全校3名宿命（津波）に挑戦！ ～正しく、冷静に恐れよう Final～



高知県 四万十町 四万十町立興津中学校
前校長 田上 祐一

1 はじめに

本校は、「自ら学び 共に認め合う心豊かでたくましい生徒の育成」を学校教育目標とし、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を目指し、生徒も明るく素直で、お互い切磋琢磨し、日々の学習や学校行事に取り組んできました。

令和2年度限りで74年の歴史に幕を下ろし、閉校となりましたが、取り組んできた防災学習の概要についてご紹介します。

2 背景



土佐湾上空から見た興津地区

本校の校区は、土佐湾（太平洋）に面しており、南海トラフ地震発生に伴う津波の襲来は宿命です。そのため、古くから地域・行政の方々と共に地震や津波対策に取り組んできました。本校の防災学習の合言葉は「興津全員逃げ切るぞ！」です。

令和元年度は、平成30年度に考案した「津波到達時間表示板」を広く定着させるため、地域の会合等に出向いて学習発表や防災だよりを全戸配布（全433戸に6か月連続）

しました。

「津波到達時間表示板」とは、南海トラフ地震が発生した場合、地震後に人間が自力で避難ができなくなると言われる30cmの津波が到達するまでの時間を、その場所ごとに「10分」、「15分」、「20分」、「25分」と表示して知らせるものです。これにより、津波は地震後すぐにやって来るとしている高齢者の方々に緊迫感だけでなく、心の余裕を与えられると考えました。



H 30 津波到達時間表示板



R 1 津波到達時間表示板の広報活動

さて、地域には東南アジア諸国から技能実習生として来日している方々がいらっ

しゃいます。

そこで、こうした方々に地震や津波の恐ろしさを伝え、地震後はすぐに津波から逃げていただくために、「津波到達時間表示板」を外国語で補完する【多言語表記板】を新たに作成しようという声が生徒から上がりました。



R 2 多言語表記板の掲示活動

3 取組の内容

生徒の自発的な取組は主に次のとおりです。

- ①掲載する言語を決めるために、地域に向いて出身国を調査しました。3か国語（ベトナム語、中国語、フィリピン語）が決定し、英語を加えた4か国語で表記することにしました。
- ②掲示板に4か国語をどのように配置するかを検討しました。
- ③見やすく、分かりやすい色使いを学習しました。
- ④掲示する文言の元となる日本語表記を考えました。外国語表記は、連携団体である京都大学防災研究所の皆さんに協力を仰ぎました。
- ⑤文字ばかりに偏らないように、津波注意を促すJIS記号、高知県の防災キャラクター（つなみまん）、自作の絵などを載せました。

⑥津波が一目で分かる動画に繋がるQRコードの掲載を発案した。動画は著作権等を考慮しました。

⑦地域に向いて掲示に適した場所を探しました。

⑧【多言語表記板】の掲示をお知らせする「防災だより」を全戸配布しました。

4 成果

本校のこれまでの活動は、多くの方々の支えをいただき発展してきました。特に平成30年度の取組はメディアにも大きく取り上げられ、生徒たちは地域の防災活動の一躍を担う責任と自信を受け継いできました。

【多言語表記板】がほぼ完成した時点で、技能実習生の方々からいただいた感想や意見を元に修正を加える活動では、「分かりやすい表示板だ。」「津波の怖さが分かった。」「地震後はすぐに避難する。」などの感想をいただきました。

表記板の実際の掲示活動では、ウイルス感染防止の観点から地域の方々との活動を断念し、学校だけの掲示となりましたが、掲示した表記板を見た方々から「既設の津波到達時間表示板との併設で表示板の機能が向上した。」などの感想をいただき、生徒たちはこれまでの取組に達成感を感じています。

本校のこれまでの活動は、興津地区自主防災組織の活動の一つとして位置づけられているため、活動の反省会で出される意見等を次年度に生かすようにしてきました。

表記板を掲示することにより、外国から来た方々が地震・津波を正しく冷静に恐れ、積極的に避難していただくことを願っています。

興津全員が逃げ切るために……。